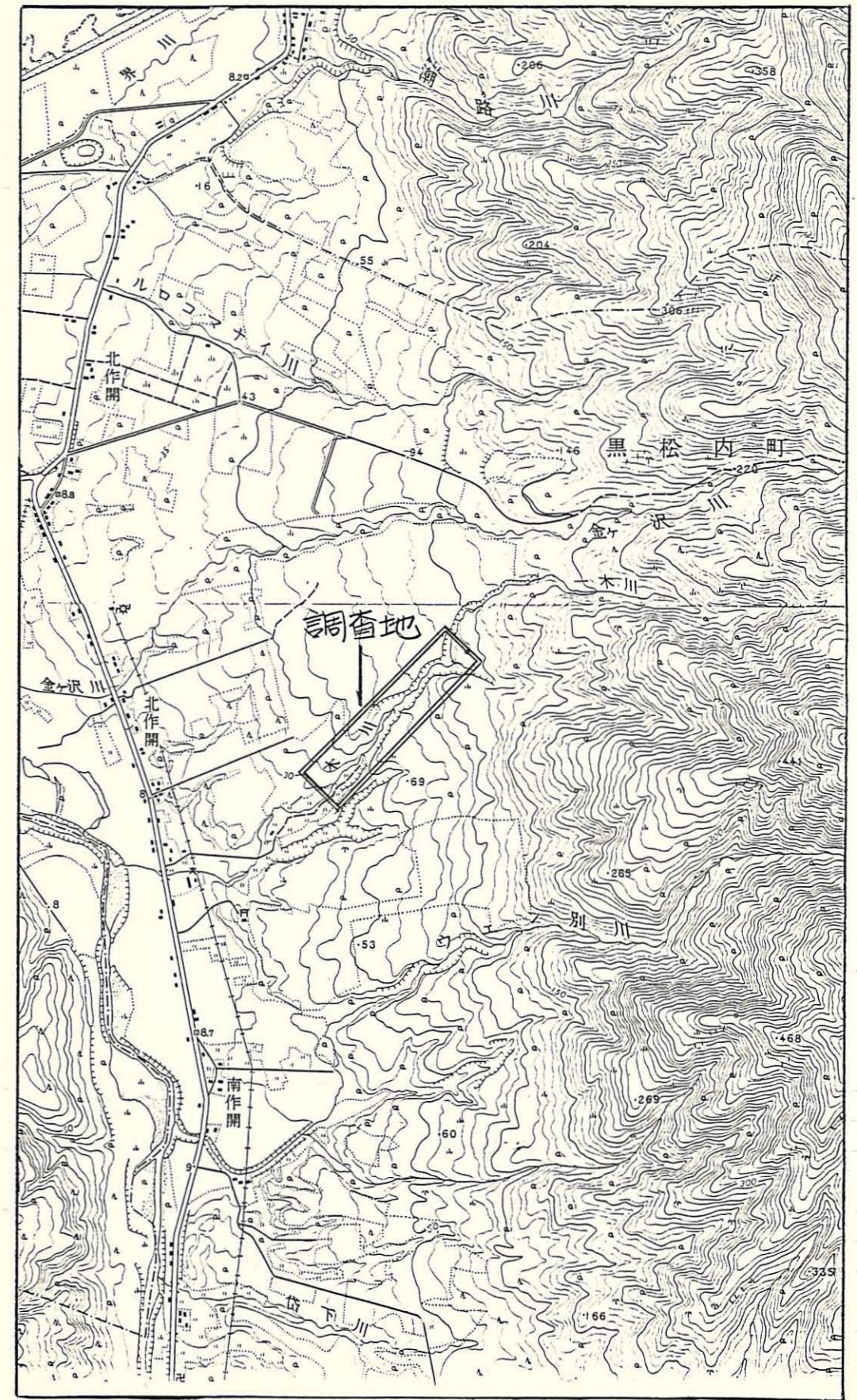


- 礫, 砂, 粘土
(扇状地堆積物)
 - 安山岩
 - 凝灰角礫岩
- 黒松内下



S = 1:25,000 0 500 1000 (m)

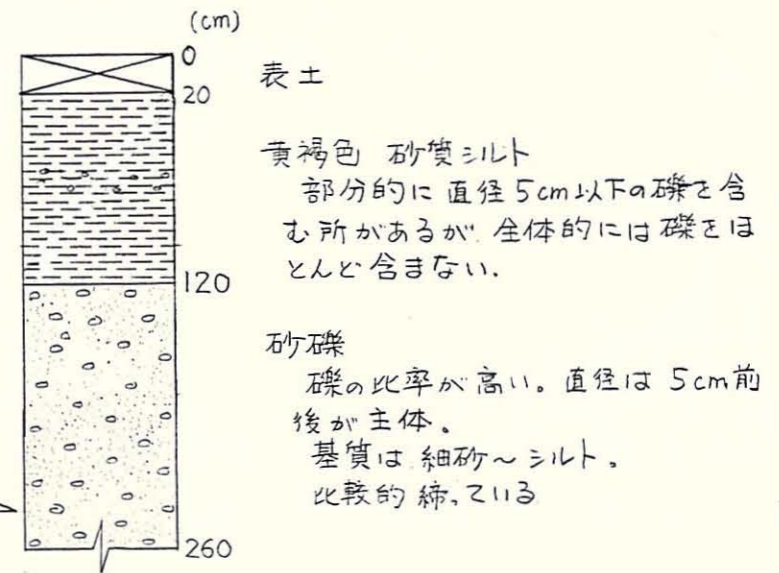
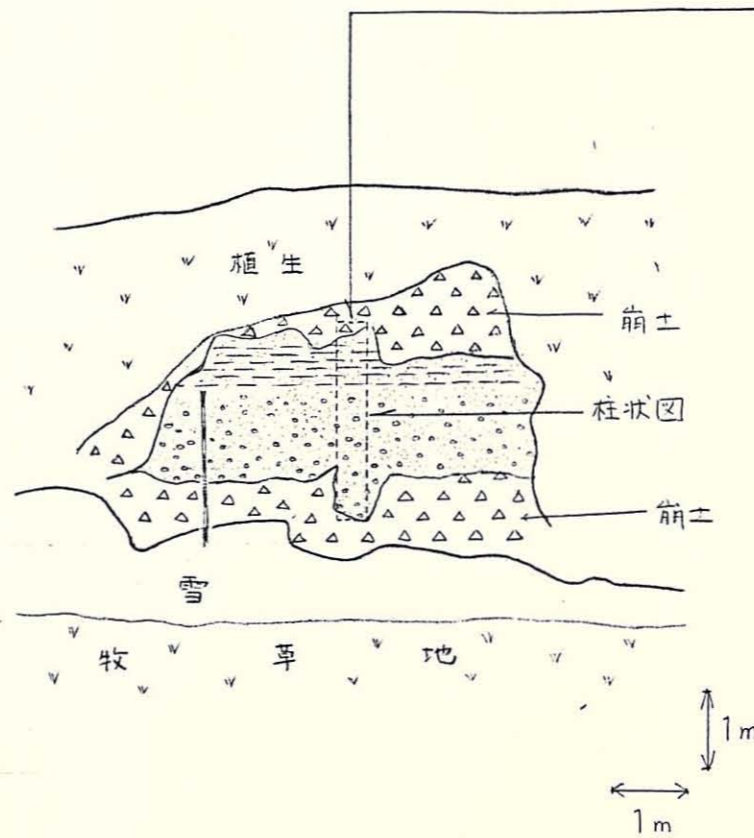


写真 1.
全景

一木川左岸, 扇状地堆積物より構成される。
現地は、牧草地として利用されている。



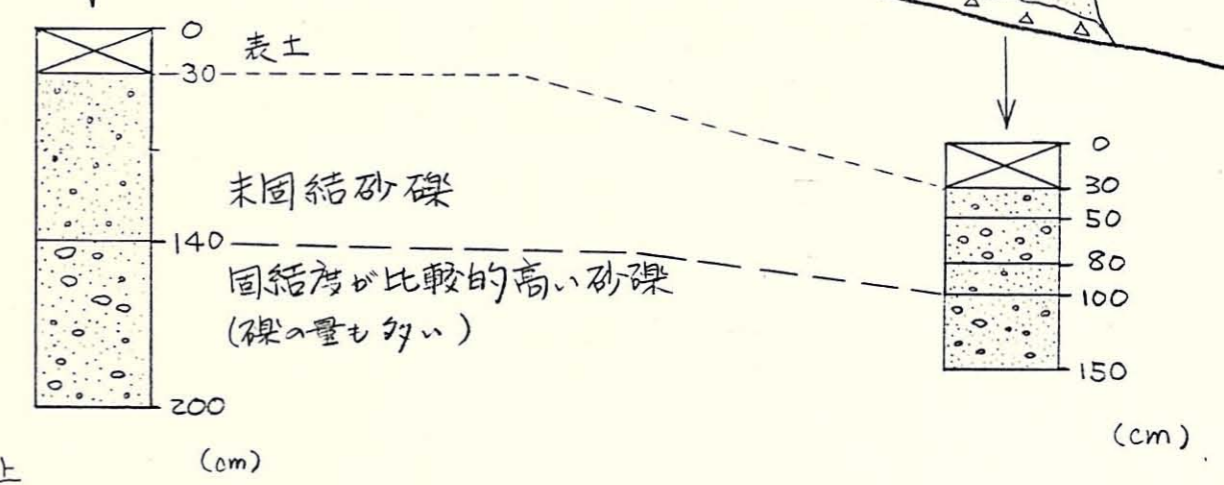
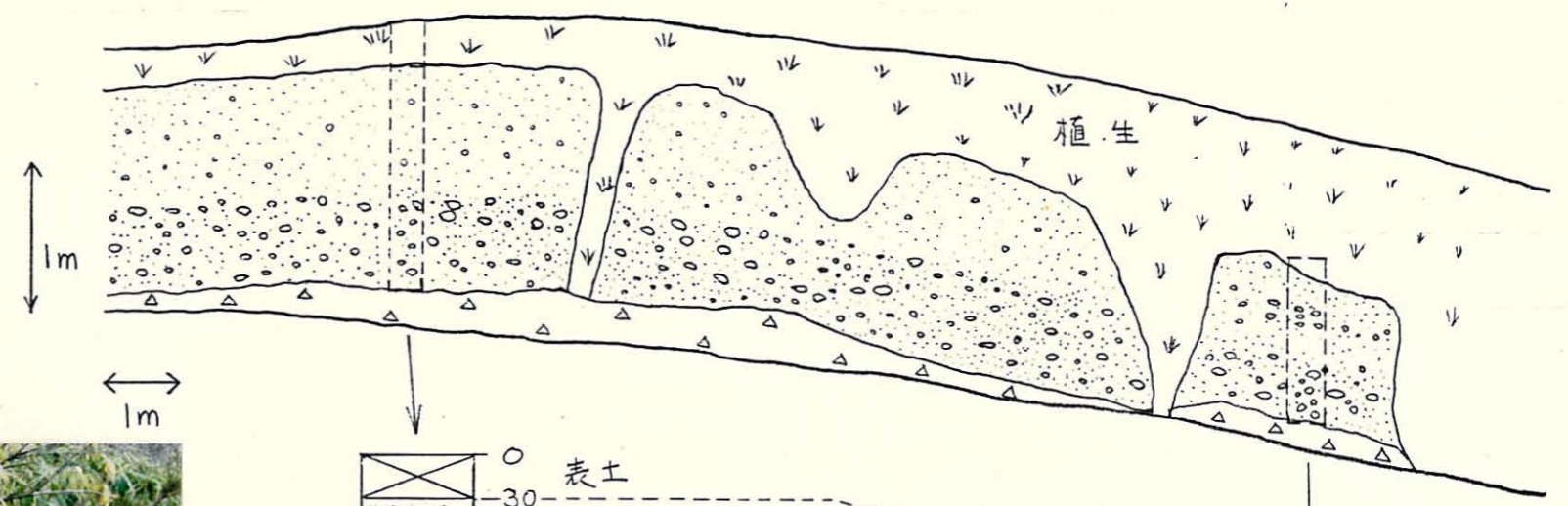
写真 2. 右図参照。



- 地形的に段差等の異状は認められない。
- 砂質シルトの層は、連続性がよく、堆積構造に異常は認められない



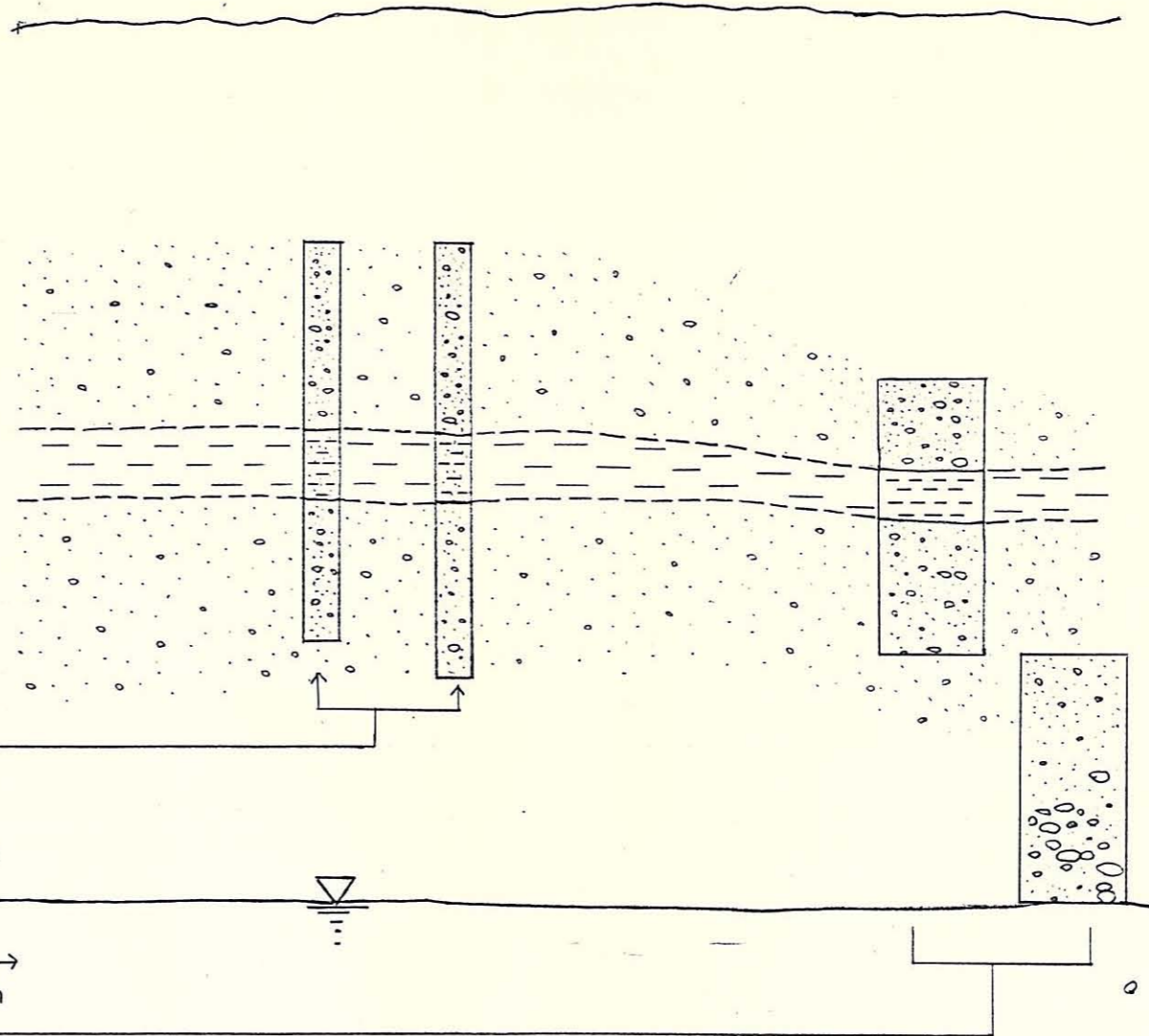
全 景



上掲写真の近影



- 扇状地堆積物は、黄褐色の礫まじり砂質粘土である。
- 礫径の平均は5cm、最大20~30cm 礫種は安山岩他である。礫含有率20~30% (多い所で60~70%である)
- 露頭周辺に扇状地形は認められない。



- 地質は扇状地堆積物で小礫まじり砂質シルトである。
- 露頭内で見られる淡黄色のシルトは連続性がある。

上記写真近影



写真 ①



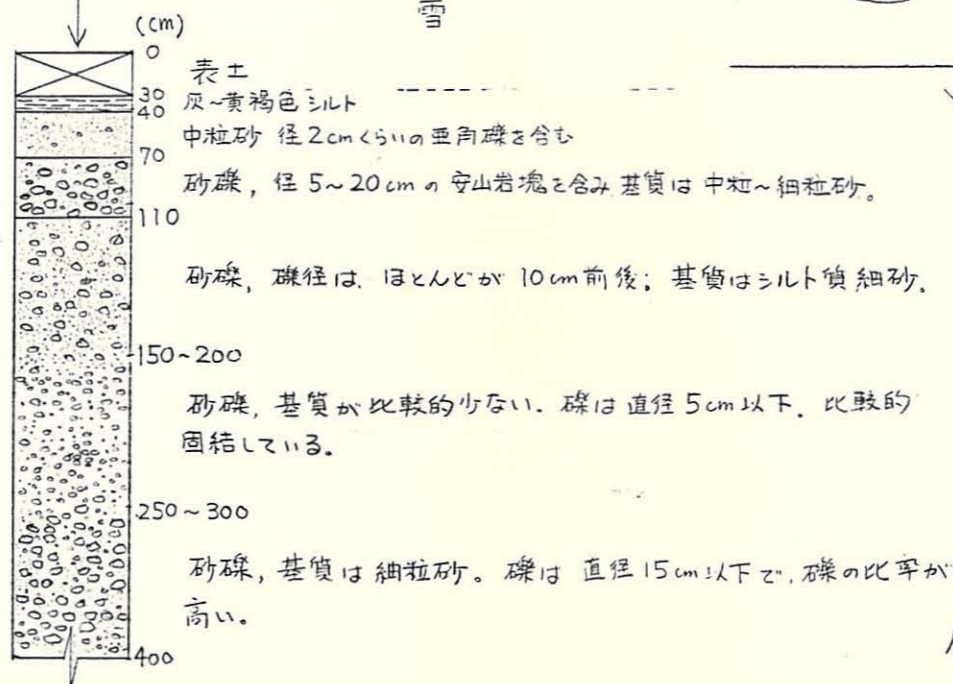
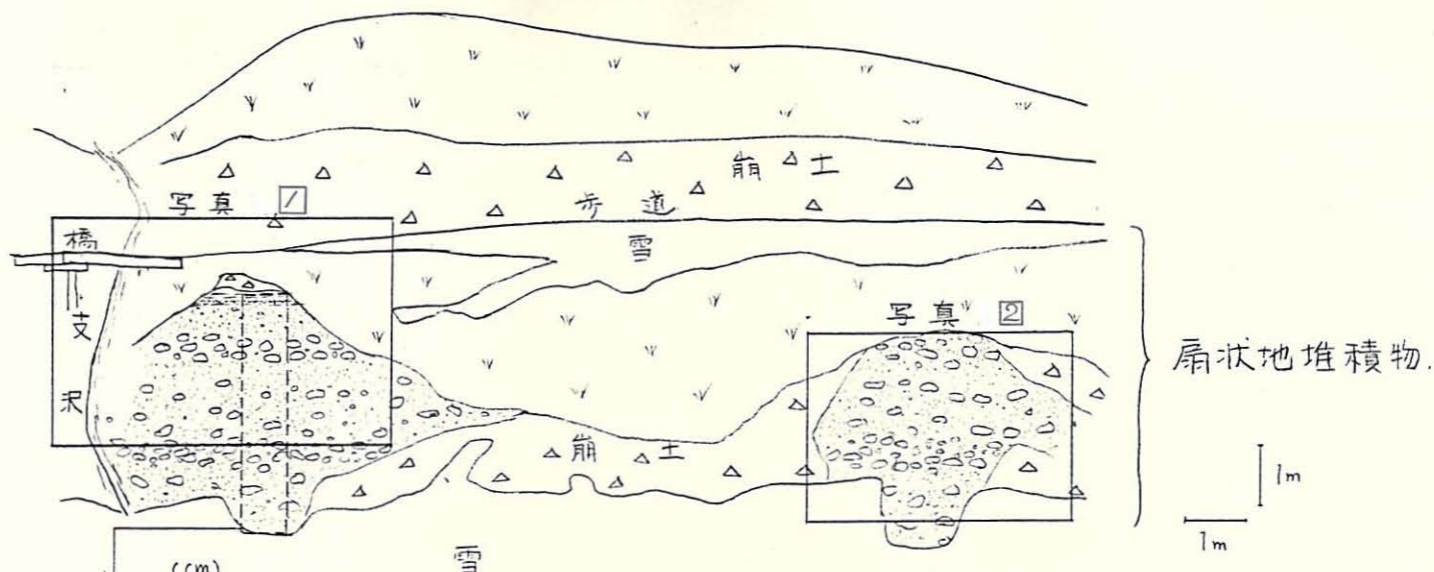
写真 ②



写真 ① の 近 影

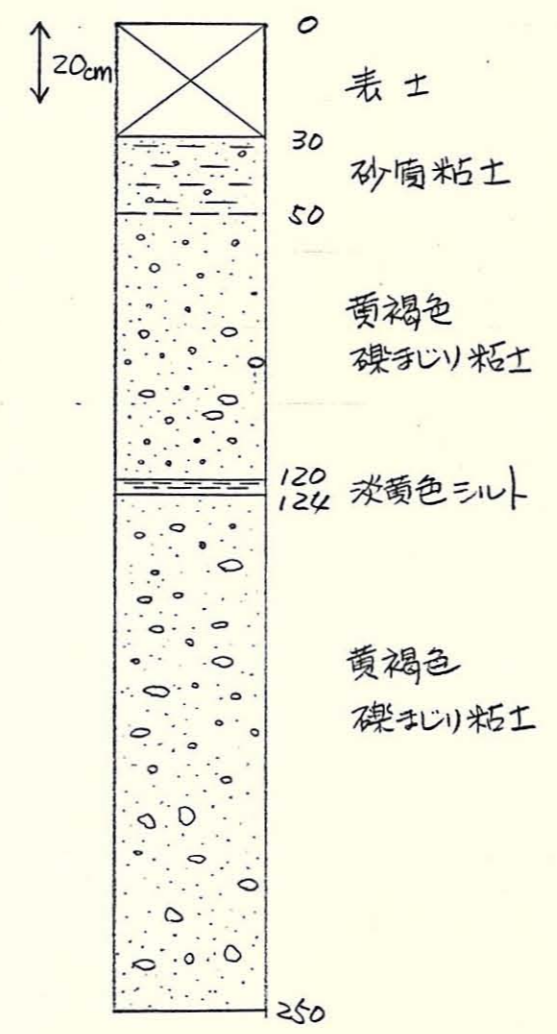
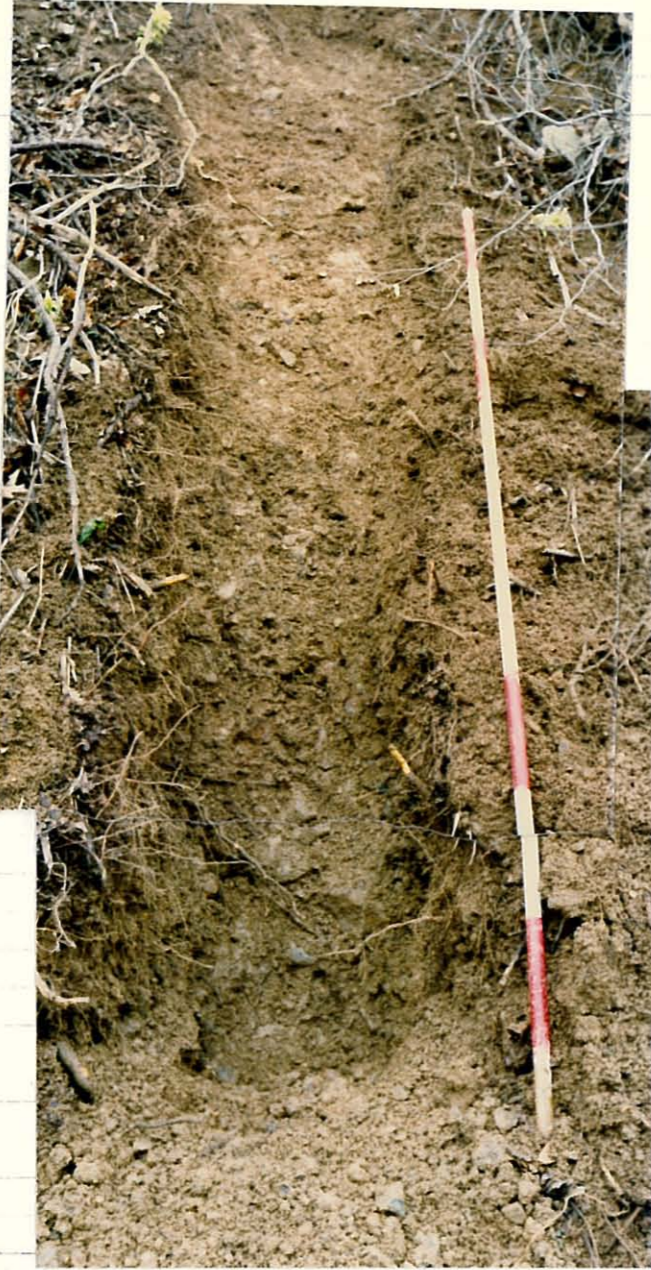


写真 ② の 近 影



扇状地堆積物

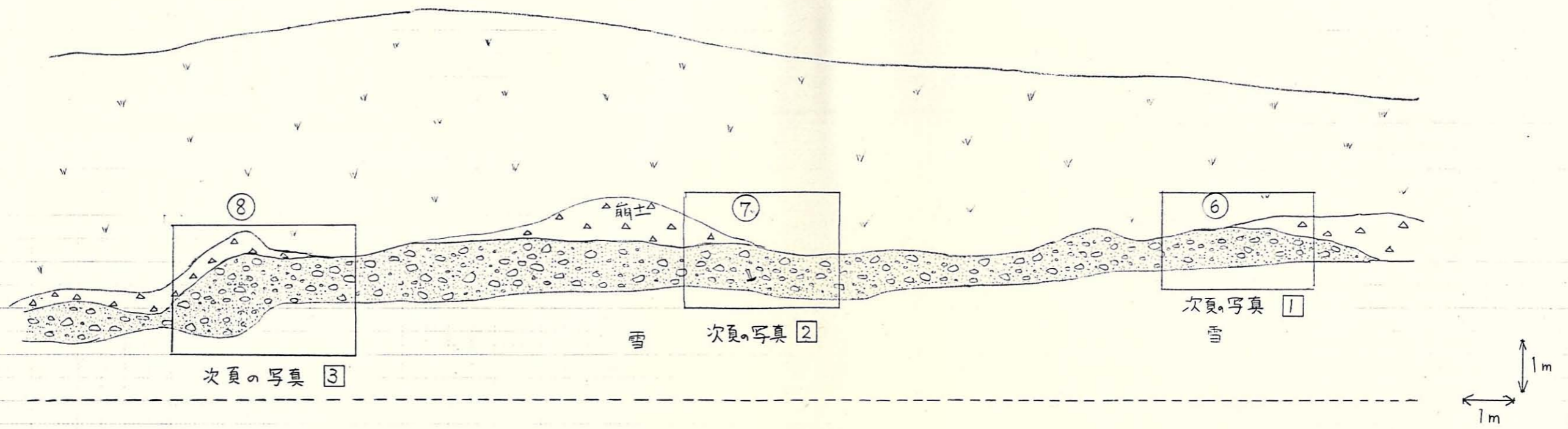
。礫の長軸は層理に対して、ほぼ平行を示し、堆積構造に異常は認められない。



扇状地堆積物

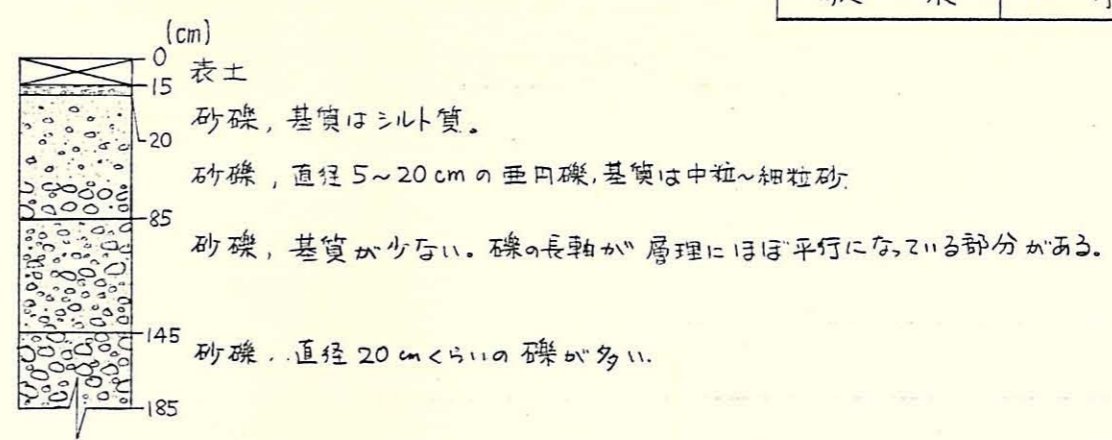


- 礫入り粘土からなる扇状地堆積物である
- 表層、周辺地形に異状は認められない。
- 礫の並び、基質部にも特に変化は認められない。

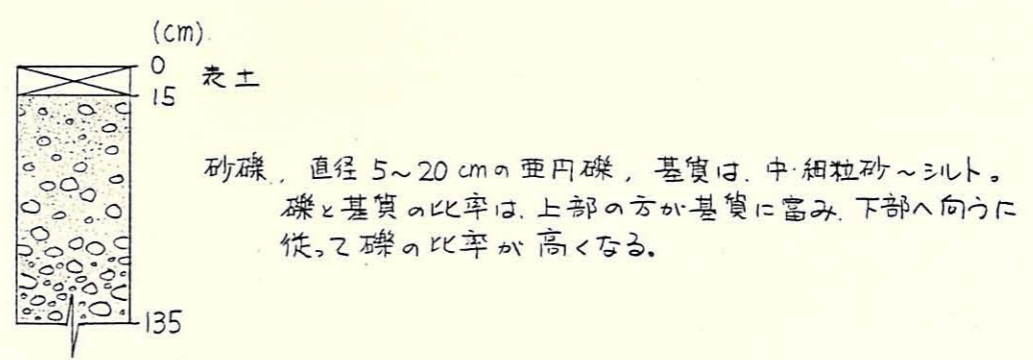


扇状地性の砂礫層で、直径 30~5cm の安山岩の円礫が主体である。

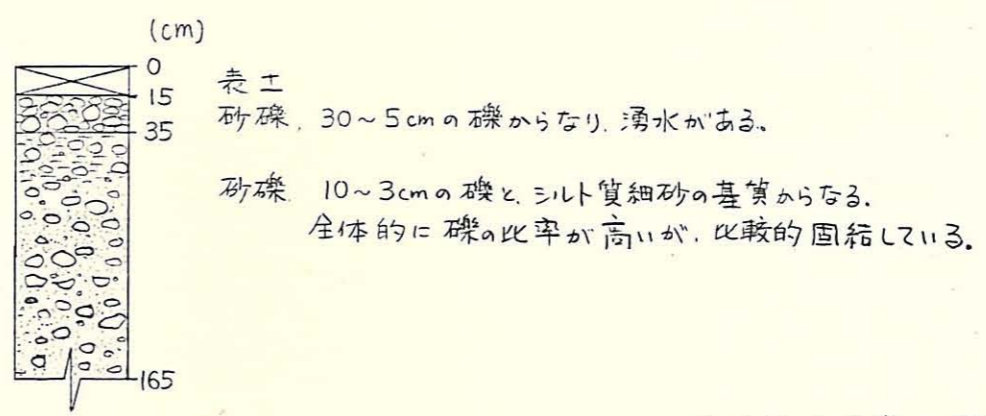
⑥
写真 ①



⑦
写真 ②



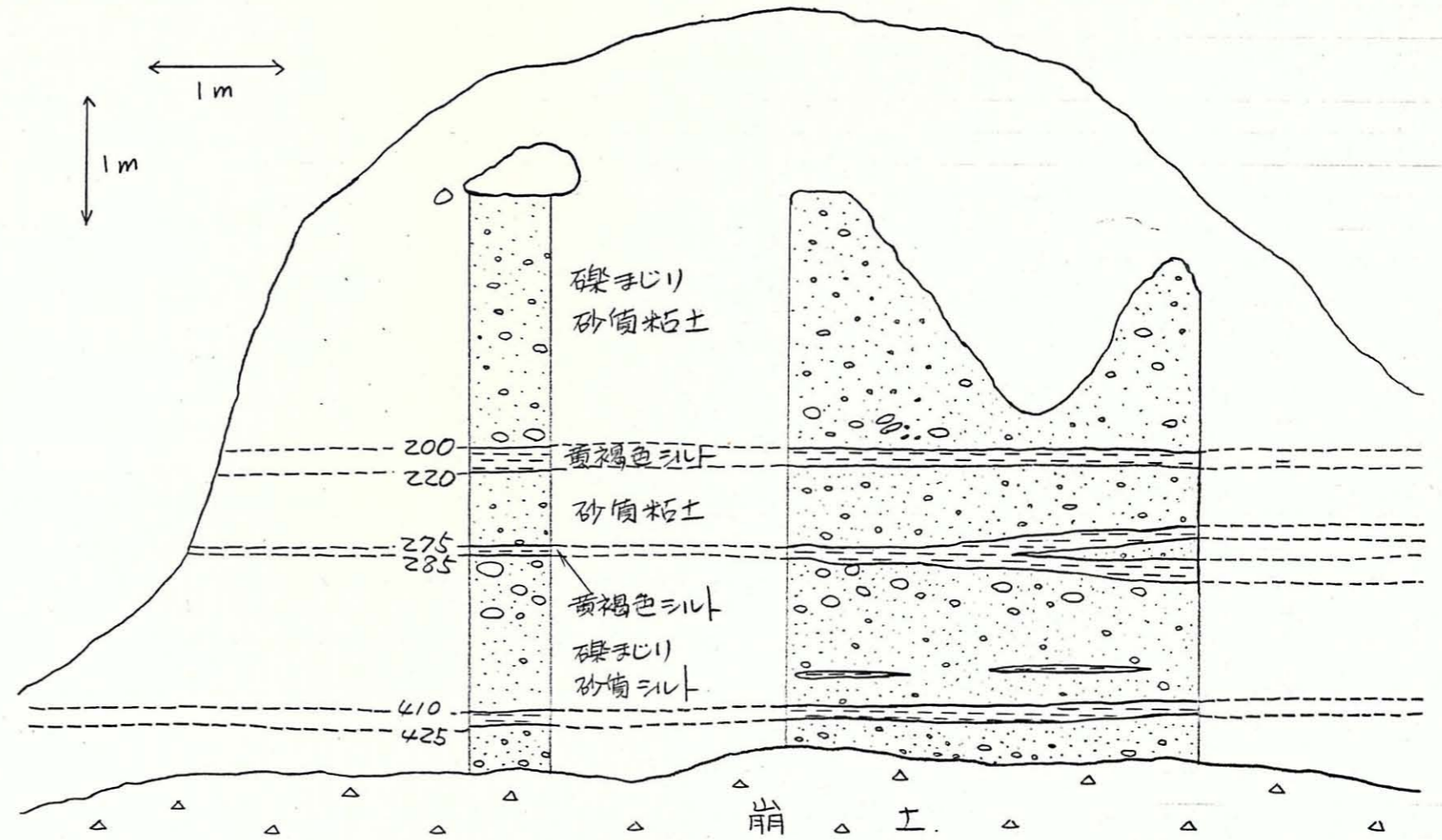
⑧
写真 ③



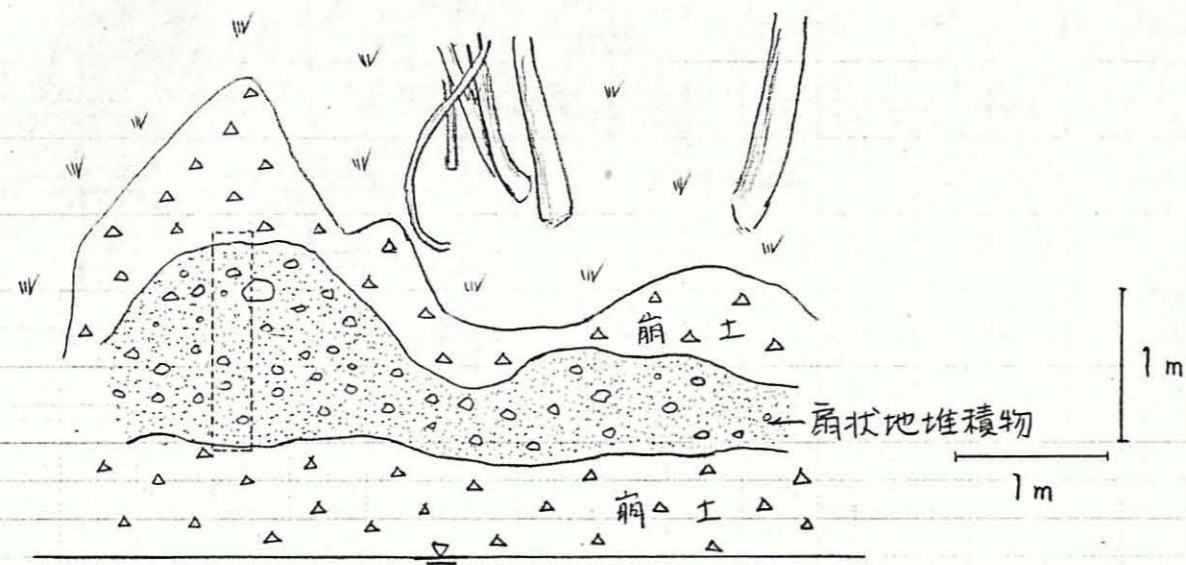
- 地形的な異常は認められない。
- 全体的に礫質であるため, 堆積構造は, 必ずしも明瞭ではないが, 礫の長軸が水平に近い方向に並ぶところがある。



上掲写真部の表土はぎ途中の近影



- 礫まじり砂質粘土, 同シルトなどからなる扇状地堆積物である。
- 厚さ 10 ~ 20 cm のシルト層は 露頭内で連続しており, 堆積構造は乱れていない。



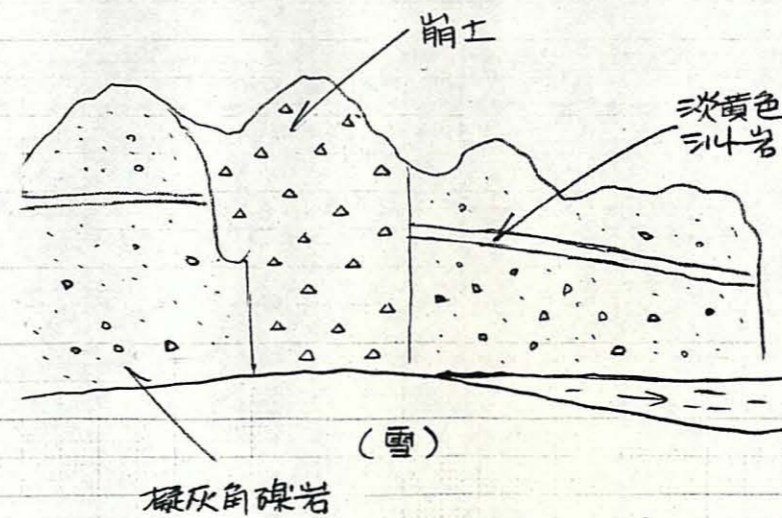
表土・崩土

砂礫，高温酸化により赤褐色になった安山岩塊と、同質の中粒砂の基質よりなる。基質が多いが、礫の直径も最大60cmと大きい。
 深度20~60cmは赤褐色を呈し、深度60~140cmは黄褐色~橙色を呈す。

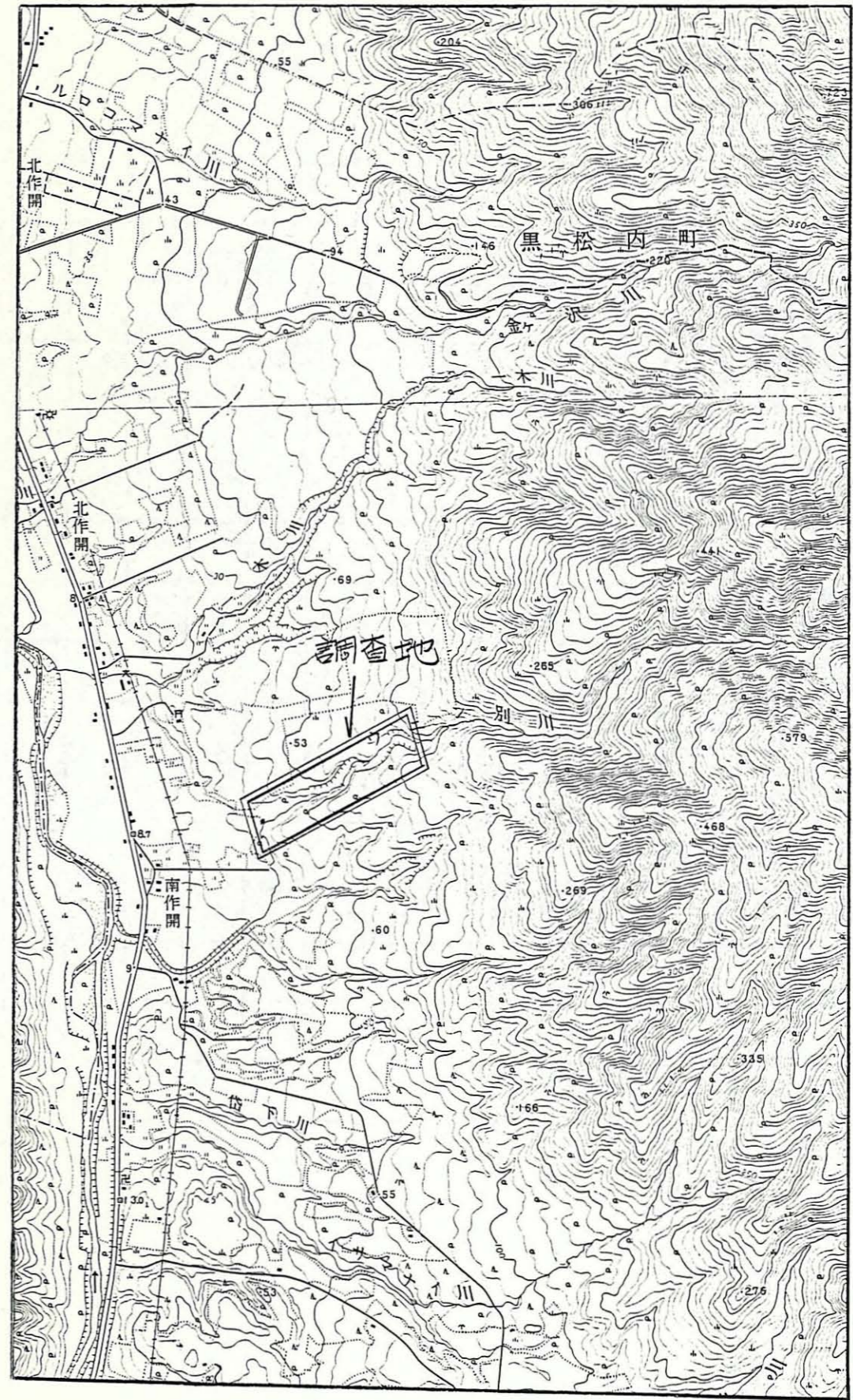
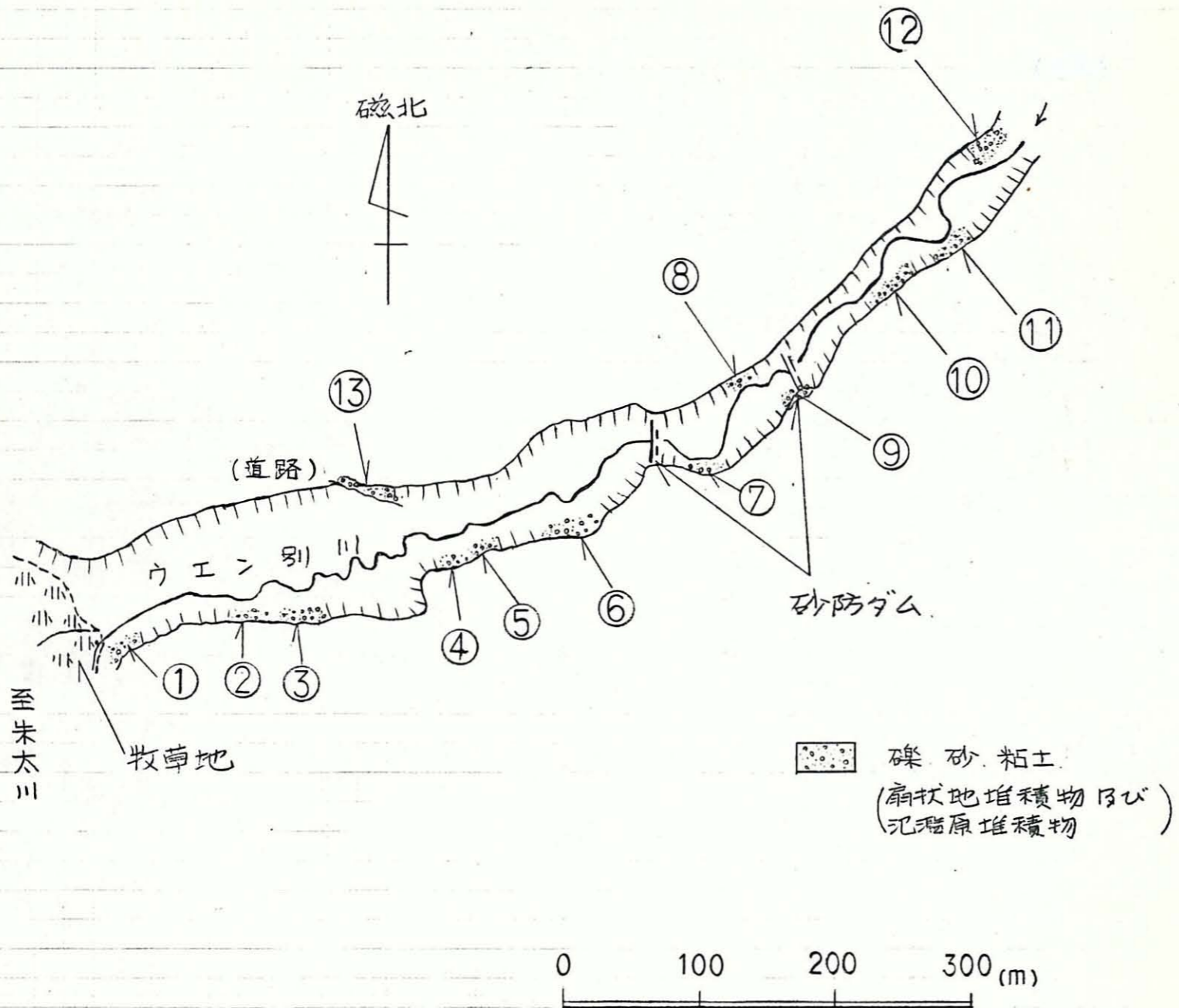
扇状地堆積物



- 露出部は黒松内尾の安山岩である。
- 本露頭中に断層は認められない。



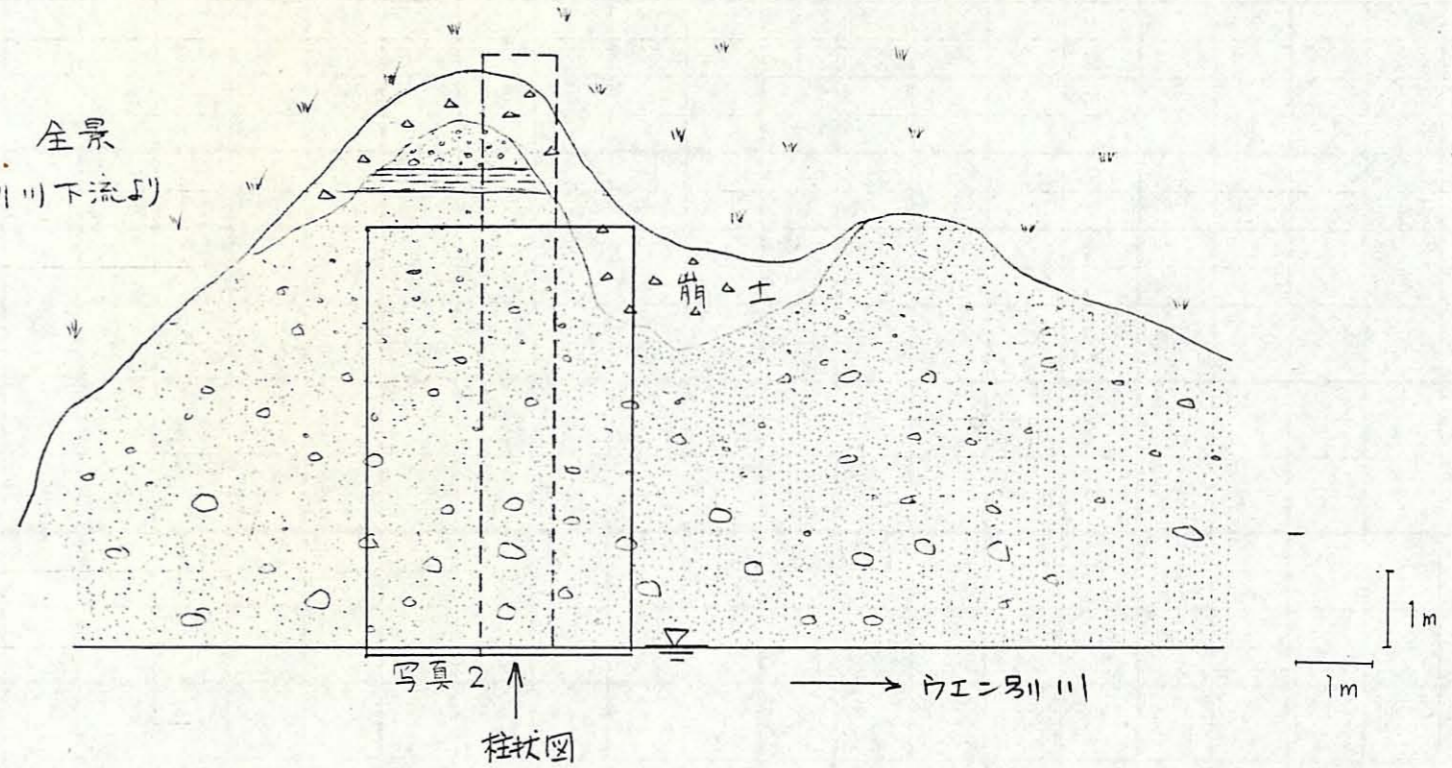
- 露出部は黒松内尾 (擬灰角礫岩) である
- 露頭中央部のシラ岩 (淡黄色、厚230cm以下) は部分的に崩土におおわれている。



S = 1:25,000



写真① 全景
ウエニ別川下流より
望む

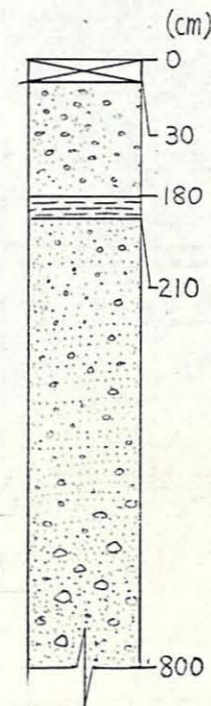


写真② ↑

柱状図



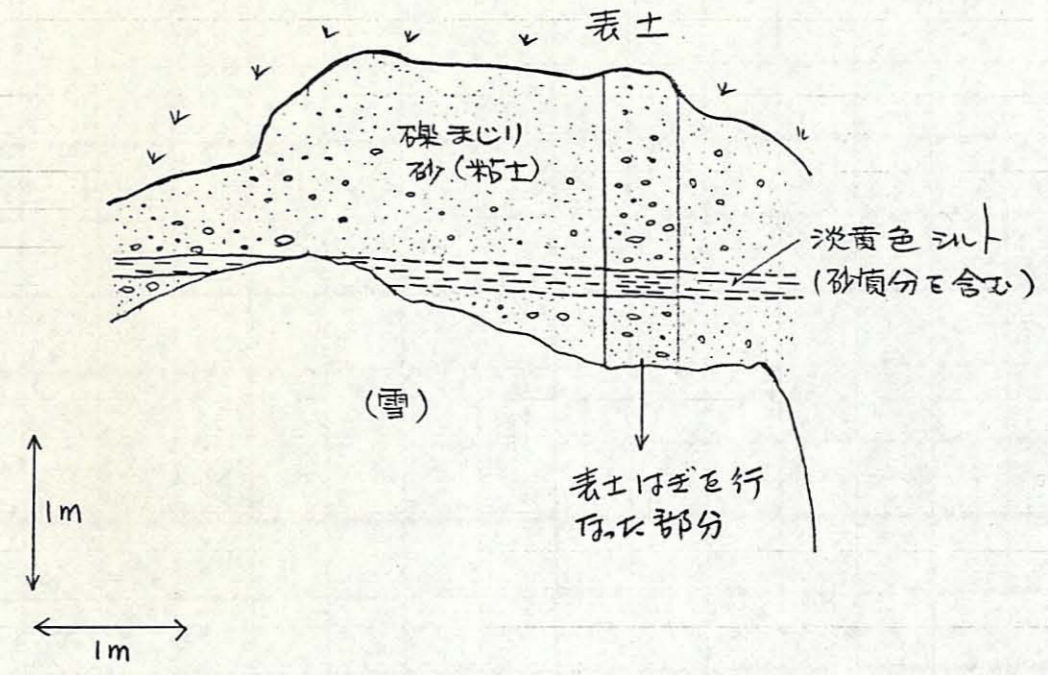
写真②
右上図参照



表土
30 砂礫 直径数cmの礫からなる
180 シルト
210 砂礫、直径10cm以下の礫と、砂質シルトの基質からなる
下部の礫は最大30~40cm。

扇状地堆積物

- ・扇状地性の砂礫層で、シルト層を挟在する
- ・地形及び堆積構造の異常は認められない

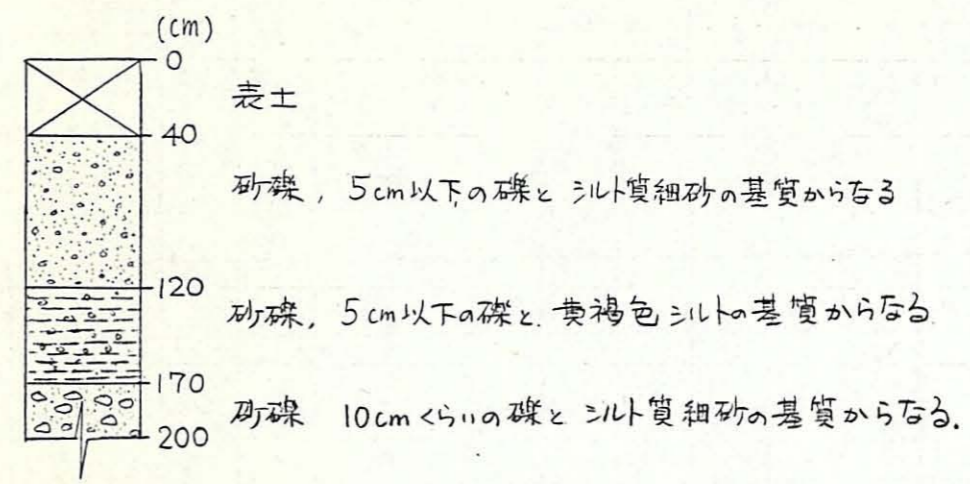


- 地質は扇状地堆積物である。
- 厚約20cmのシルト層は露頭内で連続しており、堆積構造に異常は認められない。



写真 ①

ウエニ別川の下流より上流方向を望む。
向って右側の蛇行した箇所が露頭の位置

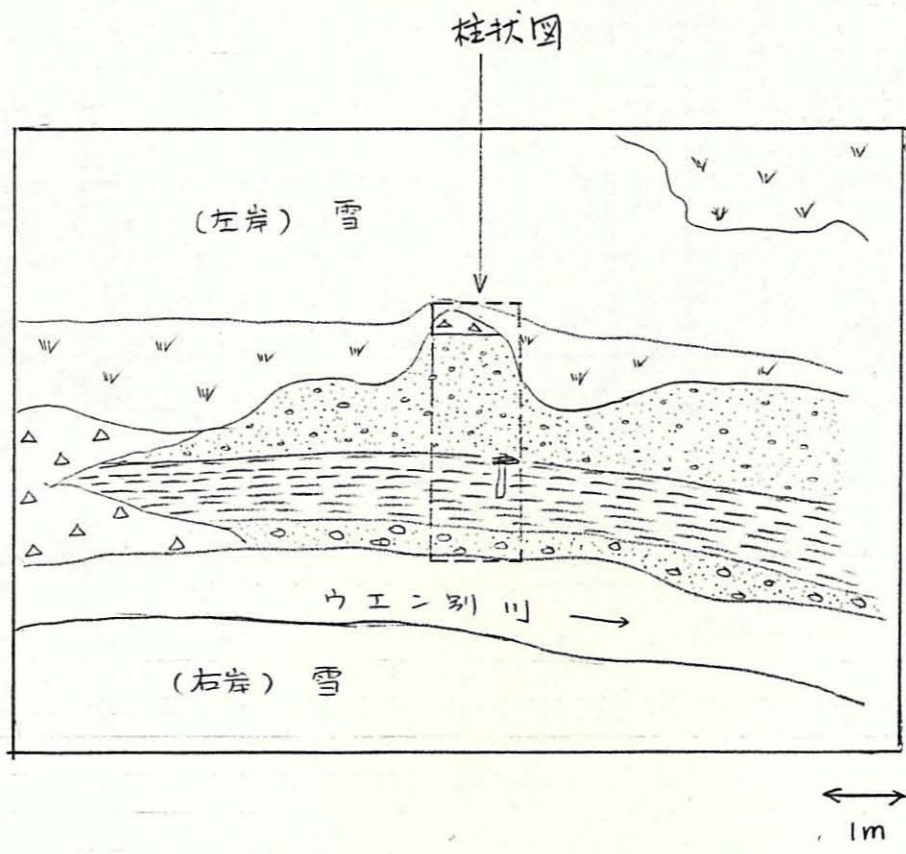


泥らん原堆積物



写真 ②

露頭全景 (右図参照)



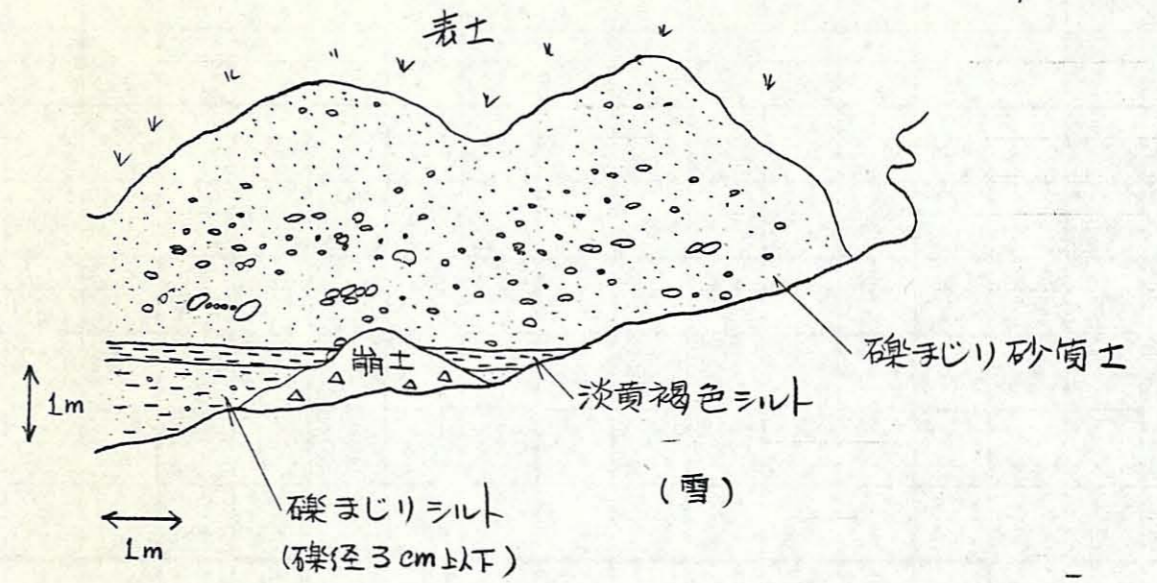
- ウエニ別川の泥らん原堆積物である。
- 地形、及び堆積構造を乱すような異常は認められない。



写真 ① 露頭直影



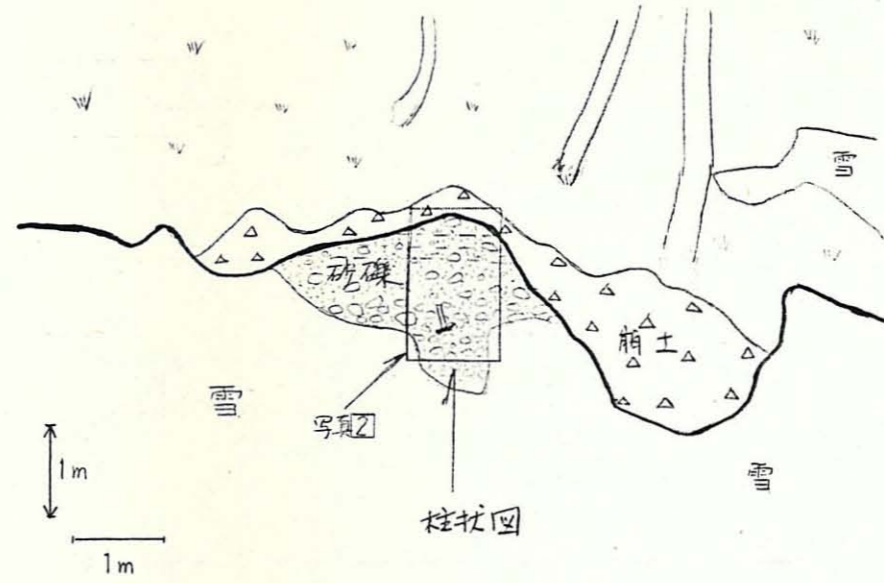
写真 ② 写真①の左端部近影



- 礫まじり砂質土やシルトを主とする扇状地堆積物から成る。
- 厚さ 20 ~ 40 cm の淡黄色シルト層を挟むが露頭内で連続している。
- 砂質土層中の礫の並びに、不自然な箇所は認められない。



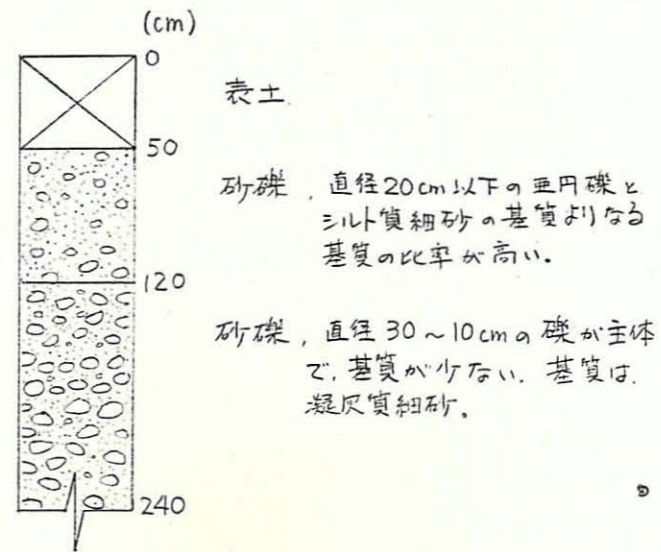
写真① 全景



全景スケッチ
(写真①に対応)



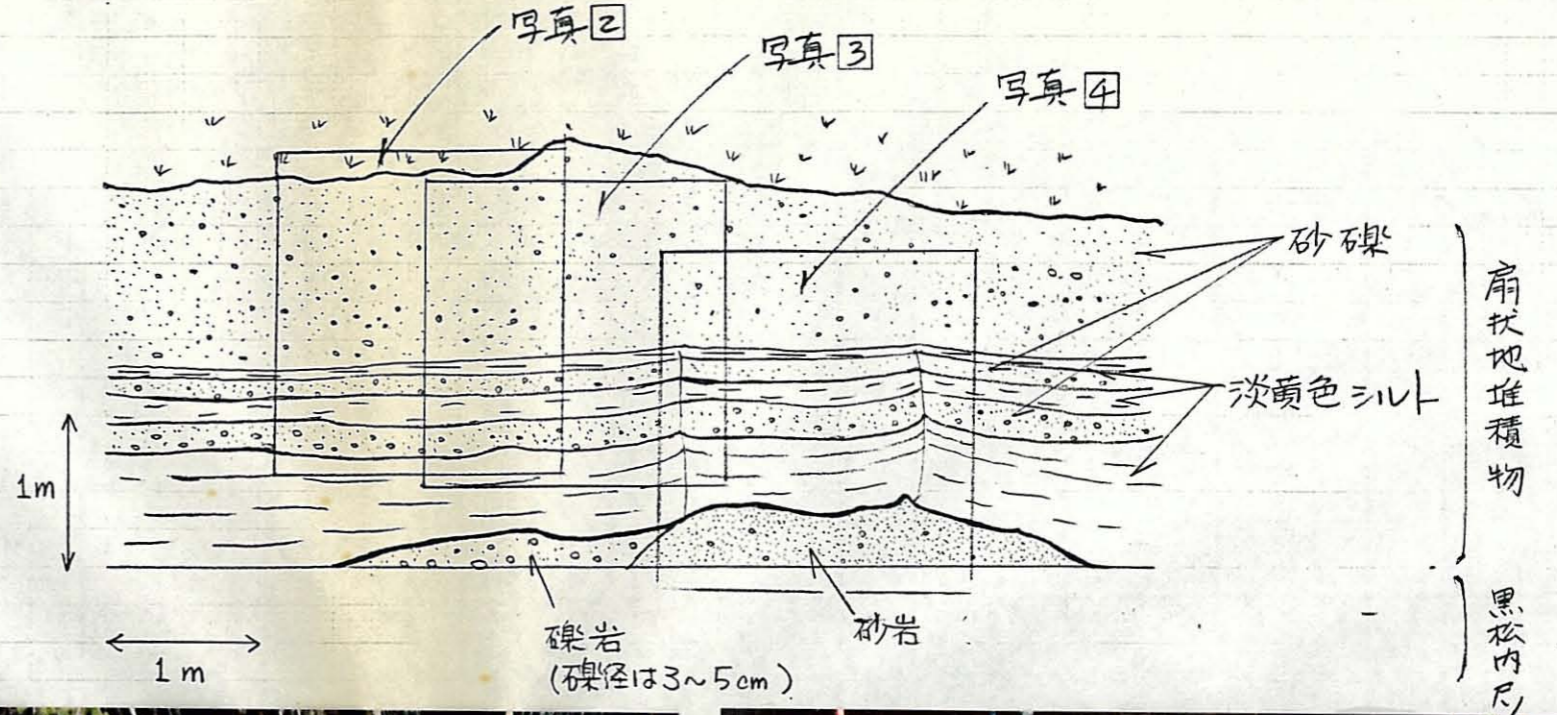
写真② 近景



- 扇状地堆積物
- 扇状地性の砂礫からなり、下部に礫が多い。
 - 地形及び堆積構造を乱すような異常は認められない。



写真① 全景



写真②



写真③



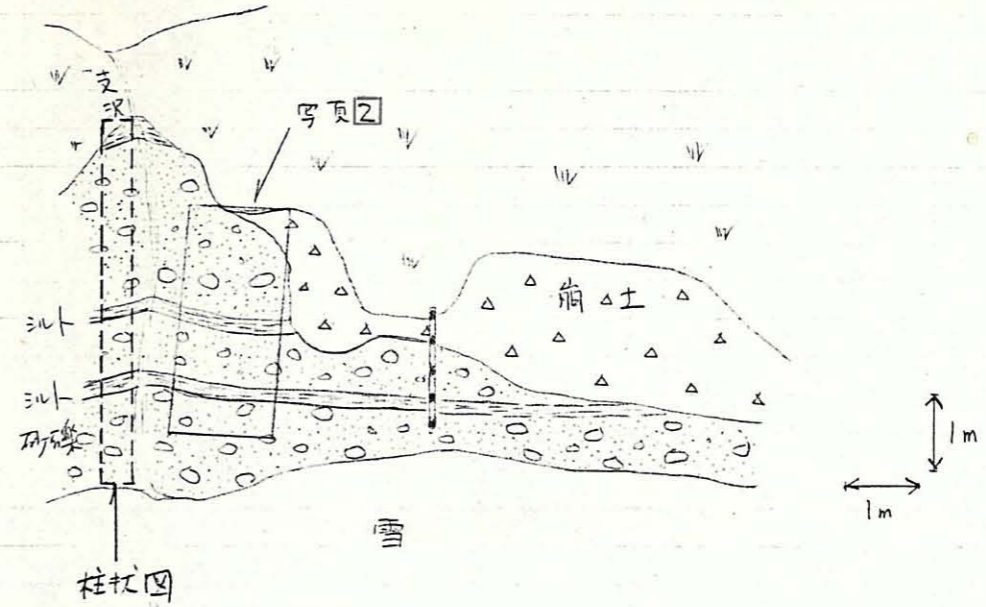
写真④

写真②~④は、写真①の近影

- 礫岩、砂岩から成る黒松内頁とこれを不整合に覆う扇状地堆積物。
- 写真④で、地層が逆V字型に見えるのは、地層が手前に傾斜していて、この部分が削られている為である。



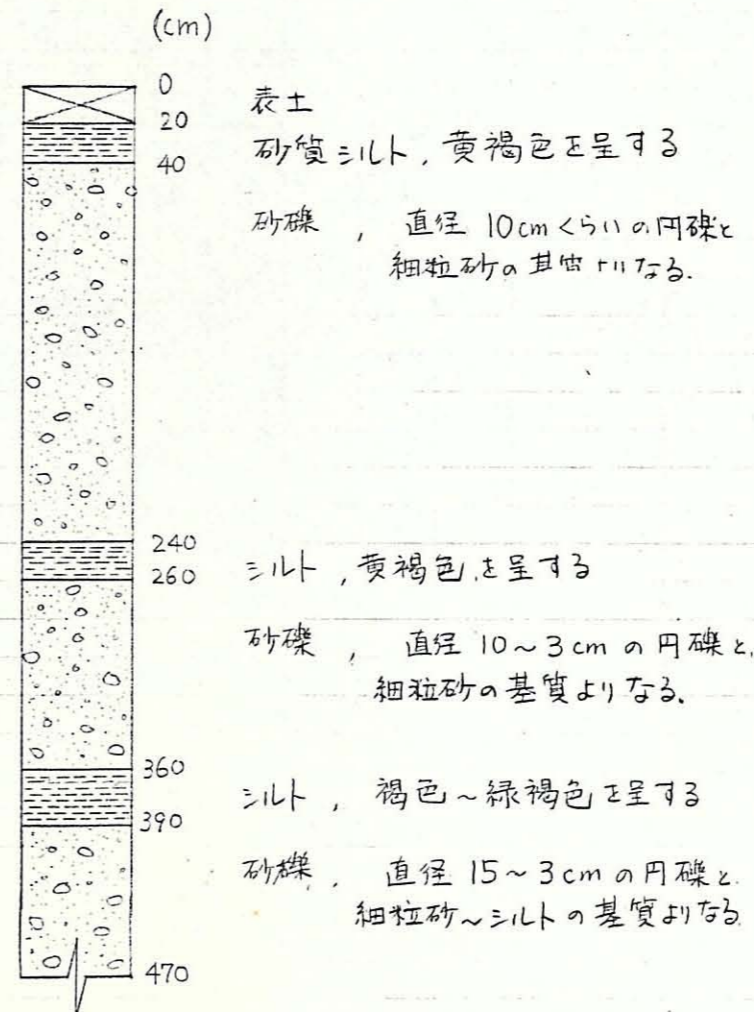
写真① 全景



写真①に対応



写真② 近景

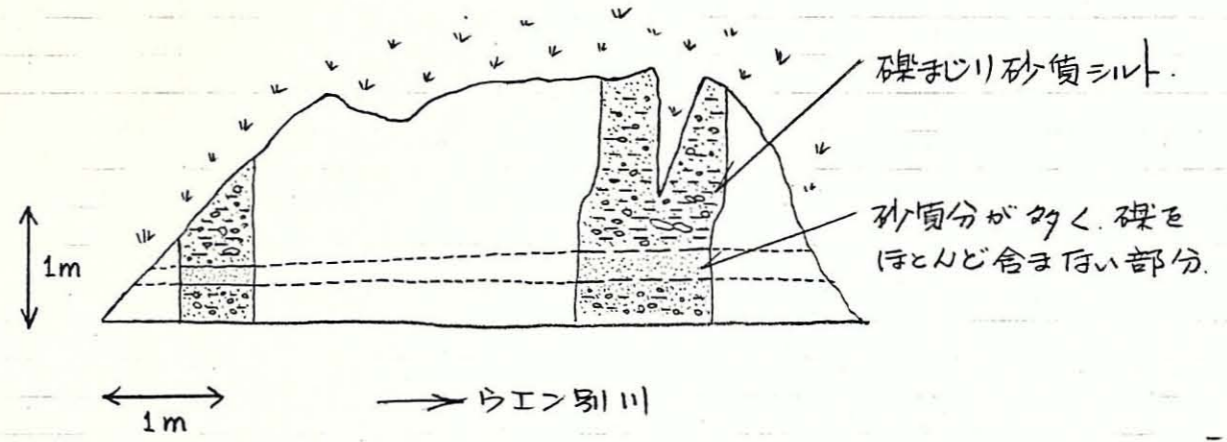


扇状地堆積物

- 扇状地性の砂礫層にシルト層を挟在する。
- 地層は谷の方向にゆるく傾斜している。(手前)
- 地形及び堆積構造を乱すような異常は認められない。



写真 ① 全景



- 地質は、扇状地堆積物の礫まじり砂質シルトである。
- 厚さ 20~30cm の礫をほとんど含まない砂質土は露頭内で連続している。



写真 ② 近景